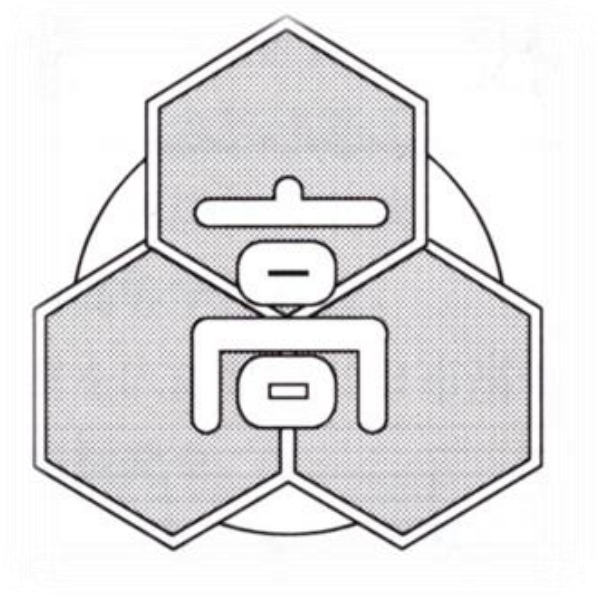


令和元年度学校経営計画
年度末評価



広島県立廿日市西高等学校

令和元年度自己評価シート(年度末評価)

校番	67	学校名	廿日市西高等学校	校長氏名	三宅 啓介	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
1 「主体的・協動的・深い」学びを追求する授業を創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。							
主体的な学び、協動的な学び、深い学びをすすめる	授業評価アンケート 「あなたはこの授業を受けることで、この科目を学ぶ意欲が高まった。」の肯定率	79%	80%	79.8%	B	目標値をほぼ達成することができた。パフォーマンス課題を取り入れた授業を実践するなど、授業づくりに取り組み、研修の場で共有することができた。	教務部
家庭学習習慣を身に付けさせる。	家庭学習時間 平時平均学習時間 試験前平均学習時間	平時 59分 試験前 115分	平時 60分 試験前 140分	平時 74分 試験前 133分	B	本年度目標値には試験前平均学習時間が7分及ばなかったものの、家庭学習時間は前年度より増加した。	
進路目標実現に向けた学力を伸長させる	1年生第3回模試と、2年生第3回模試とを比較した時の、3教科平均偏差値 45以上の割合上昇率	-5.4%	+0.5%	-4.5%	C	1年時の17.5%から2年時は13.0%となり、-4.5ポイントと大幅に減少した。	進路指導部
	合格者数 国公立大学 広島修道大学 広島工業大学	4人 24人 14人	7人 35人 35人	2人 13人 11人	C	昨年度実績および目標値を下回った。	
キャリア実現のための支援体制を確立する	学校評価アンケート 「生徒一人ひとりに適したきめ細かい進路指導を行っている。」の肯定率	56.5%	58%	56.8%	B	目標を1.2%下回った。 3年生は、61%と目標を達成したが、1年生56%、2年生51%であった。	
挑戦を続ける受験体制を確立する	大学進学希望者におけるセンター試験3科目以上の受験者の割合	44%	50%	64%	A	AO入試受験者もセンター試験を受験する指導を行った結果、受験者が大幅増となった。	

【評価結果の分析】

- 学びの変革への取組で授業改善を行った結果、授業評価アンケート「あなたはこの授業を受けることで、この科目を学ぶ意欲が高まった。」において、特に3年生は肯定的な回答が83%と高い数値であり、授業への意欲の高まりが見られた。
- 家庭学習の重要性について、集会時の講話や学習の振り返りにおいて伝えている結果、平均家庭学習時間は増加した。ただし、学習をしている生徒としていない生徒の2極化がみられる。
- 1月に実施した第3回記述模試の3教科平均偏差値の比較では、偏差値45以上の割合は1年時17.5%(35人/200人中)→2年時13.08%(26人/199人中)と4.5ポイント減少(9人減)であった。特に国語の偏差値45以上が-7.5%(15人減)、数学も-2.0%(4人減)、英語-7.5%(15人減)とすべての教科で低下している。文型、理型とも2科目であれば45以上であっても、3科目目の残り1科目の成績が大きく低下しているため、3教科合計で平均偏差値が45を上回る生徒が減少している。
- 大学合格者数は現在、推薦入試で1名公立大学に合格しているが、一般入試では8名が受験予定であるが合格者数は未定である。広島修道大学に関しては、一般入試の受験者数が増加したにも関わらず昨年度の成果(実人数)を大きく下回った。広島工業大学については一般入試の受験者数は昨年度よりも更に減少し合格者数増につながらなかった。総合的に基礎的な学力も含め、一般入試で勝負できるだけの学力がついていないことに加え、生徒がのんびり構えてしまっている現状を打開する取り組みが不十分であったことを痛感した。
- 「生徒一人ひとりに適したきめ細かい進路指導を行っている。」の肯定率の上昇については、面接指導や進路別ガイダンス、JSTとの面談など継続して実施することでなど取組が少しずつ評価されたと思われる。また、1学期に実施する「学年別進路説明会」及び「三者懇談会」での担任の先生からの情報提供が評価されたと思われる一方で、数値の低い2学年に対しての取り組みを強化する必要がある。
- センター試験受験者数については、昨年度より20名程度増加した。AO入試での受験者が今年度に関しても多くいたが、進学後の学力の重要性を指導した成果だと思われる。しかし、受験した生徒の意識は高くなく、得点率は低かった。

【今後の改善方針】

- 各教科で育てたい資質・能力について、具体的に生徒の目指す姿を整理し共有していくとともに、作成した年間評価計画・単元指導計画について生徒実態に合わせ検証し改善していく。パフォーマンス課題を取り入れた授業を単元に1回行い、どの程度生徒に力がついたのかを検証し、改善する。
- 学力向上に向けて、各教科において定期的な課題提出や小テストを実施し、さらに生徒の思考を促すような授業展開及び定期試験での出題を工夫する。
- 1,2年生での進路別、分野別ガイダンスの実施や学校、学部研究を深めるLHRや総合的な学習の時間を通して、進路研究を深める工夫を考察し、実践できる計画を立案していく。
- きめ細やかな担任との面接指導をしていくための情報提供を進める。また、3年生での進路変更を防ぐためにも就職指導に関して1年生からの早期指導や2年生夏、冬の三者懇談会を通して話し合いを進めていく。
- 進路が未決定な生徒たちの共通点に、「保護者とまだ話し合っていない」という点があり、保護者への意識喚起や情報提供の場を設定したり、案内の工夫、情報提供の方法を工夫する必要がある。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
2 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。							
基本的な生活習慣を確立させる	特別な指導件数	80件	12件	42件	B	目標値を大幅に超えたが、生徒が振り返り、自分を見つめ直す指導を行うことが出来た。	生徒 指導 部
	1日平均遅刻者数	3.9人	5.0人	4.2人	B	目標値以内には、達成できたが、昨年度の2月末までの累計を下回ることが出来なかった。	
生徒が主体的に校内美化に取り組む	保護者アンケート「環境美化に積極的に取り組んでいる。」の肯定率	58.7%	60%	64.1%	A	日々の清掃活動に取り組み、校内美化に努めた。	

【評価結果の分析】

- 特別な指導の件数は、42件と目標値より大幅に多い。内容は、携帯電話の指導が8件、遅刻累積が3件、喫煙2件、暴言・指導無視5件、不正行為3件、怠学が9件、アルバイトが7件、遅刻累積が3回、自動車学校が1件、いじめが1件であった。学習意欲が中々高まらず、課外活動にも参加をしない生徒が、学校をサボったり、アルバイトをする傾向が強い。また、自宅に帰って就寝するまでの間、スマートフォンを使用している生徒が、校内でも使用してしまうケースが目立った。
- 遅刻者数について、遅刻累積者の指導を強化するとともに、担任による家庭との連携を継続して行ったが、昨年度の遅刻数を下回ることが出来なかった。遅刻を繰り返してしまう生徒の遅刻に対する意識を変えることが出来ていない。

【今後の改善方針】

- 生徒指導は全教職員が行うものであるという共通理解と生徒・保護者への丹念な理解や協力体制を引き続き作っていく。
- 美化活動について、現在、一部の生徒がローテーションで掃除を行っているが、クラス数も減り生徒数の減少もあるので、普段あまり使用しない場所の掃除を期間を開けて行ったり、全員で掃除を行う日を増やすことも今後検討したい。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
3 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にする心を育てる。							
部活動を活性化させる	部活動加入率 (1・2年生)	75%	65%	66%	A	体育系、または文化系の生徒加入率は、目標値を上回っている。	生徒 会指 導部
	生徒・保護者アンケート「部活動は活発に活動していると思う。」の肯定率	59%	60%	61%	A	学校評価アンケートの「部活動は充実している」について、肯定的な回答の割合は61%で、ほぼ目標値を達成した。	
自主活動を活性化させる	ボランティア等自主活動への参加総数(延べ数)	455人	600人	481人	B	天候不良や模試の関係もあり、延べ数は目標値を下回っているが、昨年の上回る参加があった。	
	生徒会による挨拶運動・校内美化活動等の回数(月平均)	1回	2回	2回	A	定期的な挨拶運動や清掃活動等を行った。生徒会だけでなく、これらの活動を定例化している部活動もある。	

【評価結果の分析】

- 1・2年生のに活動加入率は 約 66%を占め、多くの生徒が部活動に参加しているが、年度当初の約 69%をやや下回っており、継続性が課題である。
- 自主活動については、生徒会総務および代議委員会・風紀委員会で、月 1 回程度朝の挨拶運動を行うようになった。また、生徒会総務でペットボトルのラベル剥がしやキャップ洗浄を月に1～2回程度実施するようになったことで一般生徒にも分別意識が浸透してきた。また、いじめ防止委員会で、より良い学校生活のための標語募集を企画するなど、いろいろと新しい試みが動き出しており、今後に期待がもてる。その他、地域の清掃活動などについても、例年通りの参加を得ており、おおむね活発といえる。

【今後の改善方策】

- 部活動への興味・関心を高めたり自主活動の啓発のために、校内の電子掲示板等による紹介、呼びかけや生徒朝礼などにおいて活動や成果の披露の方法などを工夫する。
- 部活動関係の環境整備とともに、顧問の積極的な参加・関与をお願いし、学校全体で部活動を盛り上げていく雰囲気づくりを進める。
- ボランティアや校内自主活動について、参加の呼びかけや啓発活動を進めていく。
- 生徒会総務での委員長会議を定例化し組織的な運営を進めるとともに、一般生徒からの意見・アイデアなどを取り入れながら、生徒会活動の活性化を図る。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
4 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。							
家庭・地域に向けて情報を配信する	行事、部活動内容についての HP 更新回数	88 回	70 回	77 回	A	行事を終えるごとにHPを更新し、目標値を上回ることができた。	総務部
	生徒・保護者アンケート「本校HPを見ている。」の肯定率	42%	43%	79% (新規)	B	アンケートの質問項目を少し変更した。「HPを見たことがある」との回答 69%のうち、「様子がわかった」との回答が 79%であった。	
地域の小学校、中学校との連携、及び本校の教育内容を発信する	廿日市地区小・中学校との授業研究や出前授業・学校説明会の参加回数(延べ数)	7回	8回	7回	B	出前授業・学校説明会への参加は、ほぼ例年通りであった。授業研究会への参加ができなかった。	
	新入生アンケート「オープンスクールや高校説明会が進路選択に影響した。」の肯定率	70%	70%	64%	C	オープンスクールや学校説明会以外の学校行事を選んだ生徒が多かった。	

【評価結果の分析】

- 行事については、各分掌や学年からHPの原稿を提供してもらい体制が定着してきている。今後はさらに、部活動や進路実績等の進路指導に関する情報を充実させていきたい。
- 廿日市地区小・中学校研究授業への参加が今年度はできなかった。それ以外は中学校から依頼のあった出前授業及び学校説明会への参加であった。
- オープンスクールのアンケートでは、オープンスクールの内容が「進路選択の参考になった」という項目においてほとんどが肯定的であり、模擬授業・学校説明等の実際の体験が、進路決定に影響を与えたと考える。

【今後の改善方針】

- HPが中学生の進路決定に影響を与えていることを周知し、特に関心の強い部活動や進路実績等の原稿作成について協力を求めている。また、今年度は分掌・学年ごとにHP記事作成者を決めたことにより、スムーズな情報発信ができたので、次年度も継続するようお願いする。
- ラインネット等を通して、生徒・保護者にHPの閲覧を引き続き呼びかけるとともに、見てもらえるよう内容の充実を図る。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
5 教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。							
校内の業務改善の推進に努め、教職員の働き方改革を進める	各教職員が業績評価で設定した業務改善に関する自己評価が3以上の割合	86.9%	70%	97.2%	A	各教職員が業務改善の意識をもって取り組んでおり、目標値を大きく上回る結果であった。	全員
教職員が生徒と向き合う時間を確保する	業務改善アンケート「生徒と向き合う時間が確保できている」の肯定率	29.3%	50%	55.3%	A	2月に実施したアンケートにおいて、前年度よりも大幅に上回るとともに、目標値も上回ることができた。	

【評価結果の分析】

- 下半期の各教職員の業績評価書において、業務改善に関する自己評価が3以上の割合は 97.2%であり、目標値の 70%を大きく上回る結果であった。内訳をみると、「目標をほぼ達成した」となる3が約8割、「目標を上回る成果をあげた」となる4が約2割であり、各自が業務改善を意識して取り組んでいると言える。
- 2月に実施した業務改善アンケートにおいて、「生徒と向き合う時間が確保できている」の肯定的な割合は 55.3%であったが、県立学校全体(69.8%)よりも低い数値であった。目標値を超えているが、依然として他の業務に追われていることが課題の一つとして考えられる。

【今後の改善方針】

- 業務改善(スクラップアンドビルド等)を積極的に行い、小さな取組でもできることから進め、各自が達成感をもって生き生きと働いていることが実感できる職場となるよう工夫していきたい。

令和元年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	67	学校名	広島県立廿日市西高等学校	校長氏名	三宅 啓介	全日制	本校
----	----	-----	--------------	------	-------	-----	----

経営目標	評価				
	A	B	C	D	未確定
1 「主体的・協働的・深い」学びを追求する授業を創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。(6項目)	1	3	2	0	0
2 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。(3項目)	1	2	0	0	0
3 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にすることを育てる。(4項目)	3	1	0	0	0
4 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。(4項目)	1	2	1	0	0
5 教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。(2項目)	2	0	0	0	0
計(19項目)	8	7	3	0	0

1 評価結果の分析

(1) 成果

- 本校で育てたい資質・能力「聴く力」「考える力」「行動する力」について、具体的に生徒の目指す姿を全教職員で話し合い、基礎・発展・応用に分類し整理することができた。また、年間を通じて1つはパフォーマンス課題を取り入れた授業にチャレンジしてもらい、研修にて共有することでヒントを得たり、課題を話し合うことができた。
- 遅刻指導について、全校的な取組の中で数を大幅に増やすことなく昨年度並みに抑えることができた。毎年卒業・入学してくる生徒の入れ替わりにしっかりと『遅刻をしない学校』をつなげていく取組を全教職員で継続していく。
- 情報発信の一つとしてのHPIについては、各分掌・学年で行事のデータを作成してもらいやり方が定着したことで、スピードアップが図れ、迅速に更新できるようになった。
- 業務改善について、各自の取組の差はあるがそれぞれが意識して取り組んでいることは成果と言える。

(2) 課題

- 進路目標を明確にし、集会や授業を通して、目標達成のために家庭学習の必要が不可欠であることを生徒へ意識させていく必要がある。
- 保護者対象の進路説明会の参加者は、1年生42%から44%、2年生は22%から33%へと両学年とも昨年度より増加した。進路説明会の内容の充実や保護者への呼びかけ方を工夫した効果があったと考えられる。来年度は従来の運営ではなく形式を変えての開催となるが、参加者が増加するよう取り組みたい。
- 1学年の遅刻者数が大幅に増加している。2学年で更に増大させないよう毎日の遅刻者の丁寧な指導をしっかりと行っていきことや家庭との連携をこまめに行うことが必要である。
- 特別指導になった生徒に対して、生徒指導および担任のみの関わりとなることが多い。
- 近年オープンスクールへの参加者が減少していたが、今年度はわずかだが増加し、内容に対する評価も概ね肯定的であった。HP等を利用して中学生やその保護者に向けた情報を提供するなど、参加者を増やす取り組みを継続する必要がある。
- 自主的な活動への参加は、部活動・生徒会所属の生徒などに偏る傾向にあり、より幅広い生徒の参加が望まれる。
- 業務改善に取り組んだ結果として、それぞれの教職員が生徒と向き合う時間が増えていると感じるはずであるが、実際には連動していないことは課題である。

2 今後の改善方策

- 各教科で育てたい資質・能力について、具体的に生徒の目指す姿を整理し共有していくとともに、作成した年間評価計画・単元指導計画について生徒実態に合わせ検証し改善していく。パフォーマンス課題を取り入れた授業を行い、どの程度生徒に力がついたのかを検証し、改善する。
- 1, 2年生での進路別、分野別ガイダンスの実施や学校、学部研究を深めるLHRや総合的な探究の時間を通して、進路研究を深める工夫を考察し、実践できる計画を立案していく。また、総合的な探究の時間では地域が抱えている課題に目を向け、自らが主体的となって取り組むことで学びへの意識を高めていく。

- 生徒指導は、全教職員が行うものであるという共通認識のもと、教科・高校生活・部活動・進路など様々な切り口で課題を抱える生徒に関わっていく体制をつくる。
- 部活動への興味・関心を高めたり自主活動の啓発のために、校内の電子掲示板等による紹介、呼びかけや生徒朝礼などにおいて活動や成果の披露の方法などを工夫する。また、顧問の積極的な参加・関与が不可欠である。
- 業務改善(スクラップアンドビルド等)を積極的に行うなど、重点的に取り組んでいく業務を精選し、生徒・教職員が意欲的に学びあえる職場づくりを推進していく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

- 主体性を促す授業改善への継続な取組により、生徒の意欲向上を図り、学力向上に努める。
- 授業内容を工夫することにより、「教える」から「育てる」へ繋げていくことにより、自ら目標を設定し、努力できる人材を育成していく。
- 目標値が達成できなかった項目について、各分掌において考えられる原因を丁寧に分析し、焦点を絞って、組織的に取組を続ける。

令和元年度学校関係者評価シート(年度末評価)

令和2年3月31日

校番	67	学校名	広島県立廿日市西高等学校	校長氏名	三宅 啓介	全・定・通	Ⓐ・分
----	----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	○本校の「学びの変革～主体的・協働的で深い学びを追求する授業づくり～」に向けて学校経営目標の設定は、適切に設定されており、客観的かつ明確に実施されている。パフォーマンス課題を取り入れた授業づくり、家庭学習習慣、学力の伸長、キャリア支援体制、受験体制など、積極的に取り組んでいる。また、社会で通用する人材育成、学校行事における自己実現、地域に開かれた学校づくり、そして職場環境の整備を推進している。但し、目標値が一部下方修正されたところがある。目標値は年間を通しての数値が望ましい。
目標の達成状況の評価の適切さ	A	○各分掌による目標値に対する評価は適切である。また、各目標の達成状況については、前年度および本年度（目標値、実績値）に関して、定量的かつ定性的に適切に評価を行っている。ただアンケートに回答した生徒が、アンケート内容の理解度、又は、姿勢によって信頼度が変わるので注意はいる。個々の計画の進捗状況の成果は、すぐには評価しにくいですが、評価の上下動が明確で、次年度の目標設定につながると思う。遅回数において、一年生が多いのが気になる。来年度の改善策を期待している。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	○今年度の各目標値について、担当部の報告でも、概ね取組は適切に対応されていると思う。しかし、生徒、教職員の頑張りが具体的に見えてこないで、情報発信、アピールがもっとあれば、取り組まれていることがもっと理解が増えると思う。進路目標実現に向けた学力を伸長させる項目での評価がAからCへ下がったのが気になった。目標を高め、先生・生徒・家庭の連携を高め、取り組む必要があると思う。
評価結果の分析の適切さ	A	○各分掌の報告と目標値に対する評価は適切である。達成目標ごとに、客観的な評価指標について定量的かつ定性的に分析している。育てたい資質・能力について、基礎・発展・応用の整理に沿った内容をさらに具体的に明示する工夫を期待する。生徒アンケート結果が授業などの学校経営に生かされているかどうかの設問を入れ、それから見える分析もほしかった。
今後の改善方策の適切さ	B	○取組として出来る事は行っていると感じた。しかしながら、学校だけの取組には限界があるので、地域・家庭との連携の深化が必要である。もう一度、現場教師とPTAの皆さんで各部の評価・反省を共有し、年間評価計画・単元指導計画について、「生徒実態」を客観的に把握するための手法を明示して実証する事を期待する。来年度に向けて目標に1歩でも近づく取組を期待する。
総合評価	B	○学校経営目標に沿って各達成目標について評価指標に基づく取組を着実に実施し、評価結果の分析（成果・課題）を適切に実施している。外部の意見を受けとめ、学校運営に生かそうとされていることが伝わってくる。廿日市西高校が掲げる「主体的・協働的・深い」学びの追求に向け、それぞれの評価に対しての結果を、来年度の課題としてPTA・地域ともよく協議して改善し、来年度も特徴のある学校づくりに取り組んでもらいたい。生徒への進路に対する意識を高め、部活動などでも多くの廿西の特色を出してほしい。今後の改善方策について、より客観的でわかりやすい取組方法の整理と明示を期待する。